



診断

- [Intersight 仮想アプライアンスおよび Intersight Assist のメンテナンスシェル \(1 ページ\)](#)
- [コンソール メッセージ \(11 ページ\)](#)

Intersight 仮想アプライアンスおよび Intersight Assist のメンテナンスシェル

Cisco Intersight 仮想アプライアンスは、インストールをモニタし、アプライアンスを正常にインストールするための修復手順を提供する診断ユーティリティを提供します。このコンソールベースのユーティリティは、アプライアンスのインストール中の設定ミスやネットワークの問題のトラブルシューティングと対処で役立ちます。メンテナンスシェルの目的は次のとおりです。

- インストールの前提条件に関する問題を検出して表示します。
- アプライアンスの展開時に提供される入力の編集を有効にします。
- アプライアンスの展開時に設定を修正した後、または入力を変更した後、インストールの続行をサポートします。

VM の電源がオンになった後、<<https://fqdn-of-your-appliance>>にアクセスして、インストールのステータスを確認します。電源がオンになってから約 15 分後に VM が応答しないことに気づいた場合は、Intersight 仮想アプライアンス メンテナンス シェルを使用して、ネットワークまたは設定ミスの問題をトラブルシューティングしてください。ログインプロンプトが表示されたら、診断アカウントの準備ができています。トラブルシューティングを行うには、次の手順を実行します。

1. 次の3つのオプションのいずれかを使用して、Intersight 仮想アプライアンス メンテナンス シェルを起動します。
 - ハイパーバイザでコンソール ウィンドウを開きます。
1. VMWare vCenter または Microsoft Hyper-V Manager から、仮想マシンに移動し、コンソール ウィンドウを開きます。

2. ユーザー名に **admin** を使用して管理ユーザーとしてログインし、アプライアンス展開時に使用した管理者パスワードを入力します。
- SSH セッションを開始します。
 1. Intersight 仮想アプライアンスの IP アドレスに SSH 接続します。
 2. ユーザー名に **admin** を使用して管理ユーザーとしてログインし、アプライアンス展開時に使用した管理者パスワードを入力します。
 - シリアル コンソールへの Telnet セッションを開きます。
 1. Intersight 仮想アプライアンスへの SSH セッションを開くことができない場合は、「[シリアル コンソールを使用した Cisco TAC サポートの設定](#)」で説明されている情報を使用して、Intersight 仮想アプライアンス VM にシリアルコンソールを追加します。
 2. シリアル コンソールのセットアップで指定された PORT_NUMBER の vCenter ホスト IP に Telnet 接続します。
 3. ユーザー名に **admin** を使用して管理ユーザーとしてログインし、アプライアンス展開時に使用した管理者パスワードを入力します。
2. コマンドの詳細とコマンドの結果については、次の表に示すオプションのいずれかを選択してください。

Intersight アプライアンス メンテナンス シェルのオプション	説明
診断オプション	<ul style="list-style-type: none"> • [1] [ホストに ping を送信する (ping a host)]: このオプションを使用すると、ホストに ping を送信して、すべてのプロパティと要件が正しく入力された後でもインストールが失敗した理由を確認できます。 • [2] [ホストをトレースルート (Traceroute a host)]: このオプションは、ホストが通過したすべての IP アドレスを表示します。 • [3] [接続テストの実行 (Run connectivity test)]: このオプションは、接続テストを実行し、ホストから DNS サーバーへのパスにあるすべてのホストに ping を実行します。このツールは、IP アドレスが有効かどうかを確認するためのいくつかのテストを実行し、重複した IP をチェックして、複数のインスタンスで使用されているかどうかを確認します。[接続テストの実行 (Run connectivity test)] オプションが DNS サーバーに到達し、接続の問題を解決します。

Intersight アプライアンス メンテナンス シェルのオプション	説明
設定オプション	

Intersight アプライアンス メンテナンス シェルのオプション	説明
	<p>• [a] [現在のネットワーク設定の表示 (Show current network configuration)] : このオプションは、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS サーバー、ホスト名、およびDNS 接続ステータス (NTP Servers、NTP サーバーなどの既存の設定を表示し、すべての設定が正しく入力されていることを確認するために役立ちます。接続のステータスを確認するには、接続テスト (オプション 3) を実行します。</p> <pre> Intersight Appliance Maintenance Shell [Wed Jul 5 05:24:45 2023] System Mode : Single-node ['or-pisces.cisco.com'] No change in deployment size during install. Current running deployment size Installation complete ~~~~~ Diagnostics Configuration [1] Ping a host [a] Show current network configuration [2] Traceroute a host [b] Configure network settings [3] Run connectivity test [c] Restart services installation [d] Run Debug shell (Cisco TAC only) [e] Configure Logon Banner [f] Generate and Upload Tech Support [g] Prepare Node for IP change (Multi-n Maintenance [4] Show system services status [5] Restart system services [6] Reboot virtual appliance node [7] Show node status [.] Exit ~~~~~ Choice #1-> </pre>

Intersight アプライアンス メンテナンス シェルのオプション	説明
	<pre> Intersight Appliance Maintenance Shell [Wed Mar 24 14:07:46 20 No change in deployment size during upgrade. Current running d Installation complete ~~~~~ Diagnostics Configuration [1] Ping a host [a] Show current network [2] Traceroute a host [b] Configure network se [3] Run connectivity test [c] Restart services ins [d] Run Debug shell (Cis Maintenance [4] Show system services status [5] Restart system services [6] Reboot virtual appliance node [.] Exit ~~~~~ Choice #1->a IP assignment: Static IP Address: 172.18.154.170/2001:c5c0:1992:1:250:56ff:fe92:c893 Subnet mask: 255.255.255.0/ffff:ffff:ffff:ffff::(/64) Default Gateway: 172.18.154.1 DNS Servers: 64.102.6.247 Hostname: or-pisces.cisco.com NTP Status: remote refid st t when poll reach delay ===== *10.81.254.131 .GNSS. 1 u 1070 1024 377 1.161 +10.81.254.202 .GNSS. 1 u 460 1024 377 1.223 +171.68.38.65 .GNSS. 1 u 40 1024 377 85.146 -171.68.38.66 .GNSS. 1 u 598 1024 377 76.119 ---</pre>

Intersight アプライアンス メンテナンス シェルのオプション	説明
	<p>• [b] [ネットワーク インターフェイス プロパティの設定 (set network interface properties)] : このオプションは、設定したネットワークインターフェイスのプロパティを表示します。[Enter]をクリックすると、既存のプロパティを保持したり、異なる入力セットを指定したりできます。このオプションは、次のプロパティを使用して問題 (存在する場合) を検出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [IP アドレスが無効または重複 (An invalid or duplicate IP address)] : 正しいクレデンシャルを使用してホスト名を設定している場合でも、IP アドレスが間違っている可能性があります。 • [無効なサブネットマスク (Invalid subnet mask)]: 無効なサブネットマスクでは自身のネットワーク内を移動することができますが、外部トラフィックに影響を与える可能性があります。 • [不正または無効なデフォルト ゲートウェイ (Incorrect or invalid Default Gateway)] : DNS サーバーがネットワークの外部にある場合、無効なデフォルト ゲートウェイは外部ホストへの接続に影響します。 <p>[IP アドレスの変更 (Changing IP Address)] : このオプションを使用すると、管理ユーザー (ユーザー名 admin) によって次の変更が可能になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 同じネットワーク上に新しい IP アドレスを割り当て、アプライアンス VM を別のネットワークに接続し、そのネットワーク上に IP を割り当てます。 • 別の vCenter または Hyper-V Manager 展開に移行した後、アプライアンス VM の IP アドレスを変更します。 <p>注目 変更が開始される前に DNS サーバーレコード (A、CNAME、および PTR) が更新され、新しい IP アドレスが以前と同じ FQDN に対して解決されることを確認する必要があります。</p> <p>IPv4 アドレスのみを変更するか、IPv6 アドレスを変更するか、または両方を同時に変更するかを選択できます。</p> <p>IPv6 アドレスは、アプライアンスが完</p>

Intersight アプライアンス メンテナンス シェルのオプション	説明
	<p>全にインストールされた後にのみ設定できます。IPv6アドレスを変更した後は、アプライアンスのサービスでダウンタイムは発生しません。アプライアンスVM自体は、最初に導入されたときにアプライアンスのIPv4アドレスに割り当てられたDNS名で引き続き管理されます。IPv6アドレスを設定すると、IPv6エンドポイントのターゲット要求のみが有効になります。</p> <p>IP の変更には最大 15 分かかる場合があります。この間、アプライアンス VM を再起動しないことを推奨します。約 15 分待機した後、UI からアプライアンスに再度ログインします。</p> <pre> Diagnostics [1] Ping a host [2] Traceroute a host [3] Run connectivity test Configuration [a] Show current network configuration [b] Configure network [c] Restart services [d] Run Debug shell Maintenance [4] Show system services status [5] Restart system services [6] Reboot virtual appliance node [.] Exit ===== Choice #2->b Appliance already configured. Are you sure you want to change IP? [Y]es or [N]o ->y IP Address [10.193.219.193] (Enter to accept current, CTRL-C to exit) Subnet Mask [255.255.255.0] (Enter to accept current, CTRL-C to exit) Default Gateway [10.193.219.254] (Enter to accept current, CTRL-C to exit) DNS Server(s) separated by comma [171.70.168.183,173.36.170.10] (Enter to accept current, CTRL-C to exit):172.17.58.10 Domain [cisco.com] (Enter to accept current, CTRL-C to exit) Running sanity tests against new IP... Restarting networking service Running connectivity test... </pre>

Intersight アプライアンス メンテナンス シェルのオプション	説明
	<pre> Choice #1->b Appliance already configured. Are you sure you want [Y]es or [N]o ->y Configure IPv4 or IPv6 or both? IPv[4] or IPv[6] or [b]oth->6 IPv6 Address: (CTRL-C to exit) 2001:420:282:202f:1105:0:3080:1 Subnet prefix length: (CTRL-C to exit) 112 Default IPv6 Gateway: (CTRL-C to exit) 2001:420:282:202f:1105:0:3080:1 Restarting networking service Running connectivity test... Checking IPv4 addr assignment..OK 10.193.208.91/255.255.255.0 Checking IPv6 addr assignment..OK 2001:420:282:202f:1105:0:3080:1 Checking Duplicate IPv4 assignment..OK Checking Duplicate IPv6 assignment..OK Checking IPv4 gateway assignment..OK 10.193.208.254 Checking IPv6 gateway assignment..OK 2001:420:282:202f:1105:0:3080:1 Checking IPv4 gateway reachability..OK Checking IPv6 gateway reachability..OK Checking DNS server(s) reachability...OK 171.70.168.183: Reachable 173.36.131.10: Reachable Resolving mixed-case-onprem.cisco.com against 171.70.168.183 Resolving mixed-case-onprem.cisco.com against 173.36.131.10 Resolving dc-mixed-case-onprem.cisco.com against 171.70.168.183 Resolving dc-mixed-case-onprem.cisco.com against 173.36.131.10 Reverse lookup 10.193.208.91 against 171.70.168.183 Reverse lookup 10.193.208.91 against 173.36.131.10 Successfully applied network config </pre>

Intersight アプライアンス メンテナンス シェルのオプション	説明
	<ul style="list-style-type: none">• マルチノードのみの場合 : Maintenance Console で次の手順を実行します。<ul style="list-style-type: none">• 設定オプション g を入力して、アプライアンスの IP 変更を準備し、アプライアンスで設定する選択した IP アドレスを入力します。このオプションを使用すると、ファイアウォールポリシーに新しい IP を追加して、新しい IP アドレスが割り当てられたときに他の 2 つのノードがアプライアンスと通信できるようにすることができます。• DNS サーバー レコード (A、CNAME、および PTR) を更新して、アプライアンスのホスト名が新しい IP アドレスを指していることを確認します。• オプション b を入力して、新しい IP を設定します。構成が適用されると、アプライアンスが再起動します。IP の変更には最大 15 分かかる場合があります。この間、アプライアンス VM を再起動しないことを推奨します。約 15 分待機した後、UI からアプライアンスに再度ログインします。• [c] インストール サービスの再起動<p>このオプションは、すでに動作していると想定されていたネットワークの設定を修正する場合に役立ちます。たとえば、次のものがあります。</p><ul style="list-style-type: none">• 選択した IP の PTR レコードが欠落しています (静的 IP 割り当て)。• VM が誤った portgroup/vSwitch に接続されています。• DHCP 経由で IP 割り当てを選択した場合、DHCP サーバーが動作しません。• インストールの進行状況を確認するには、URL <code><fqdn-of-your-appliance-vm></code> にアクセスします。

Intersight アプライアンス メンテナンス シェルのオプション	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • [d] 実行デバッグ (認証が必要) (Run Debug (requires authentication)): このユーティリティは、Cisco TAC がインストールの問題をトラブルシューティングする場合にのみ使用します。 • [e] ログインバナーの設定: このオプションを使用すると、新しいバナーメッセージを設定したり、ログイン画面の前に表示される既存のバナーメッセージを編集したりできます。
メンテナンス オプション	<p>このオプションを使用すると、アプライアンス VM をグレースフル リブートし、アプライアンス サービスを再起動することができます。このサブメニューのオプションはデバッグとリカバリを目的としており、Cisco TAC の指示に従って使用する必要があります。このオプションには管理者ユーザーとしてアクセスできます。</p> <p>[4] [システム サービス ステータスの表示 (Show system service status)]: このオプションは、実行中/保留中のサービスの概要を提供し、エラーを報告します。このオプションを使用すると、システムが応答しない場合やサービスの中断が発生した場合にはいつでも、アプライアンスのステータスをモニタできます。</p> <p>[5] [システム サービスの再起動 (Restart system services)]: このオプションでアプライアンスのトラブルシューティングを行い、実行中のサービスを再起動することができます。</p> <p>[6] [仮想アプライアンス ノードの再起動 (Reboot virtual appliance node)]: このオプションは、サービスを停止し、アプライアンスを再起動し、アプライアンスが再起動したときにサービスを復元します。</p>

Intersight 仮想アプライアンス インストールおよびトラブルシューティングのデモンストラーションについては、『[Cisco Intersight アプライアンスおよびデバッグ](#)』をご確認ください。

仮想アプライアンスのサイズ オプションのモニタリング

Intersight アプライアンス メンテナンス シェルは、展開サイズの決定と後続のアクションに関するステータスの更新を表示します。コンソールで展開のステータスをモニタし、必要に応じて修正措置を取ることができます。次の表に示すメッセージは、展開のシナリオと特定のソース要件について説明しています。

初期メッセージ	最終メッセージ
<p><サイズ>の展開サイズをインストールします。</p> <p>このメッセージは、必要なリソースが十分であり、目的のサイズが展開されている場合に表示されます。</p> <p>(注) リソース要件を評価した後、小規模、中規模、大規模または中程度のオプションで展開することを選択できます。</p>	<p><サイズ>の展開サイズをインストールしました。</p>
<p><サイズ>の展開サイズをインストールします (リソース提供後)。</p> <p>このメッセージは、既存の展開が現在の展開サイズに対してリソースを使用している場合、および必要なリソースが追加された後に VM を再起動した場合に表示されます。この展開はどちらのサイズでもかまいません。</p>	<p><サイズ>の展開サイズをインストールしました (リソース提供後)。</p>
<p><サイズ>の展開サイズをインストールしました。</p> <p>このメッセージは、既存のリソースと必要なリソースが類似しており、アップグレードが不要な場合に表示されます。</p>	<p>再起動中に展開サイズの変更はありません。現在実行中の展開サイズは小さくなります。</p>
<p>展開サイズを中規模から小規模にダウングレードします。</p> <p>このメッセージは、中規模の展開のサイズが小規模にダウングレードされた場合に展開されます。</p>	<p>ダウングレードされた展開サイズ (中から小)。</p>
<p>展開サイズのアップグレード (小から中)。</p> <p>このメッセージは、展開サイズが小規模から中規模にアップグレードされた場合に表示されます。</p>	<p>展開サイズが小規模から中規模にアップグレードされました。</p>

コンソール メッセージ

Intersight 仮想アプライアンスおよび Intersight Assist のインストール中または通常の操作中に、コンソールに次のようなメッセージが表示されることがあります。メッセージの正確な内容は、状況によって異なります。

```
kernel:NMI watchdog: BUG: soft lockup - CPU#0 が 36 秒間スタックします。  
[watchdog/0:11]
```

これらのメッセージは、ハイパーバイザが VM の「スナップショット」を作成している場合や、ハイパーバイザホストのリソースが制約されている場合など、Intersight 仮想アプライアンスまたは Intersight Assist がハイパーバイザによって部分的または完全に一時停止されている場合に表示されます。Intersight 仮想アプライアンスと Intersight Assist は、これらのメッセージが存在する場合でも正常に動作し続けます。

このようなメッセージが特に短期間に多数発生する場合は、ハイパーバイザ環境を調査して根本原因を特定することを強くお勧めします。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。